

会務報告

◇ 委員会報告 ◇

● 大会委員会

◆2015年4月25日（土）、東方学会会議室において2015年度第1回大会委員会を開催した。主な議題と審議の概要は以下のとおりである。

1. 2015年度春季大会（武蔵野大学）準備の進捗状況について

当日の業務体制、会場面の留意事項を確認した。また武蔵野大学実行委員会の企画による懇親会について広報・運営協力体制を確認した。

2. 2015年度秋季大会の企画・運営について

同時開催の企画として、沖縄の日本語教育関係者により機関・活動について紹介する「沖縄にほんご見本市」、会員団体発行の教材について紹介する「教材紹介コーナー」を実施することを確認し、見本市紹介者への依頼事項および教材紹介コーナーの出展公募の内容を検討した。

3. 大会委員会企画パネルセッションについて

実施方針の運用方法等については、次期委員会での継続審議事項とし、これまでの経緯や論点を整理するために意見交換を行った。

4. 査読体制案および「査読ガイドライン」案について

次期（2015年7月～）から、大会委員を企画運営委員と査読司会委員に分けて査読を行うため、査読体制案および「査読ガイドライン」案を検討した。出された意見を踏まえた改定案について後日委員会にメールにて承認を得た。

◆2015年5月30日（土）、31日（日）、2015年度日本語教育学会春季大会を武蔵野大学有明キャンパスで開催した。参加者は招待者・関係者を含めて1,042名であった。

1. 1日目は、開会式に引き続き、三つの会場で6件のパネルセッションが行われた。各パネルとも熱心な発表、討議が行われた。

2. 懇親会は、キャンパス内のロハスカフェARIAKEで行われ、招待者・関係者を含めて101名の参加者があった。

3. 2日目には、四つの会場で21件の口頭発表、三つの会場で20件のポスター発表、三つの会場で8件のデモンストレーションが、それぞれ行われた。どの会場も盛況であった。

◆2015年5月31日（日）、武蔵野大学有明キャンパス1号館203教室において2015年度第2回大会委員会を開催し

た。春季大会終了時点から新たに就任する次期委員もオブザーバーとして出席した。主な議題と審議の概要は以下のとおりである。

1. 2015年度秋季大会の企画・運営について

沖縄国際大学の太田朋子氏・尚真貴子氏からのご挨拶に続き、琉球大学との共催である旨の説明、沖縄にほんご見本市に関する紹介があった。

2. 今大会実施状況の中間報告について

委員より、聴衆席でのキーボード音や携帯電話による通話、デモンストレーション発表において事前申請のない作業補助者の同行、発表者の打ち合わせへの遅刻、パネル会場の混雑について報告があった。パネル会場への椅子等の追加は、消防法の面からも今後は避けるようにする。その他の事項については、次回の委員会での対応につき検討することになった。

3. 2016年度以降の秋季大会の企画・運営について

2016年度春季大会は日白大学（東京都新宿区）、同秋季大会はひめぎんホール（愛媛県松山市）で開催することを決定した。

2017年度秋季大会は、複数のコンベンション施設の条件を比較検討中である旨の報告があった。

4. 2015年度委員交代について

次期委員の紹介後、業務説明、2015年度秋季大会の査読について説明があった。

（庵功雄）

◆2015年5月31日（日）春季大会終了後、武蔵野大学有明キャンパス1号館203教室において2015年度第3回大会委員会を開催した。委員の互選の結果、谷部弘子氏を委員長として選出した。

◆2015年7月11日（土）、東方学会会議室において2015年度第4回大会委員会が開催された。主な議題と審議の概要は以下のとおりである。

1. 2015年度秋季大会（沖縄開催）準備の進捗状況について

使用教室の手配状況、当日のタイムテーブル案を確認した。教材紹介コーナー出展者の選考について、委員会内に設置された当コーナーWGによる選考結果を報告し、承認した。「沖縄にほんご見本市」準備の進捗状況について、出展承諾のあった6機関からの紹介文を含むイベントの広報案を確認した。

2. 2015年度秋季大会業務日程・内容の確認

委員会全体、企画運営委員、査読司会委員のそれぞれの担当業務について説明があった。また、発表者の遅刻など運営上の各種対応について検討した。

3. 2015年度秋季大会発表応募査読について

査読時に査読者よりあげられた特記事項（様式に不備がある要旨や応募者が特定される可能性のある要旨等）を中心に査読についての意見交換を行った。応募者への

フィードバックの要否や今後の対策については、不備の事例を検証し方針を定めることとした。

4. 2015年度秋季大会発表者の選考について

審査の結果、口頭発表36件、ポスター発表43件、パネルセッション7件、デモンストレーション発表5件を採択した。後日、不採択者に送付するコメント執筆担当者を決定した。

5. 大会委員会企画パネルセッションについて

これまでの経緯や議論について概観したうえで、あらためて2016年度春季大会で大会委員会企画パネルセッションを実施することを決定した。前期委員会にて提案されたテーマ案を共有し、今後、それに対する意見や新たなテーマ案を検討し、次回委員会で継続審議とすることになった。

次回の委員会予定：2015年9月（予定）

（谷部弘子）

● 学 会 誌 委 員 会

◆2015年6月27日（土）午後1時～5時、日本語教育学会会議室にて委員会を開催した。7月から新たに編集担当委員となる次期委員もオブザーバーとして参加した。

委員の交代、査読協力者の登録状況、161号の刊行準備進捗状況、162号の特集準備進捗状況、研究倫理セミナーの報告の後、以下のとおり審議が行われた。

1. 162号のコラム「海外の学会から」の原稿執筆依頼候補の決定。
2. 162号投稿論文（投稿総数24本（研究論文17、調査報告4、実践報告1、研究ノート2）の審査。
3. 165号特集（2016年12月号）の特集の趣旨等の検討。
4. 投稿規定および査読判定要領の改定。

次回委員会予定：2015年7月4日（土）

（齋藤ひろみ）

◆2015年7月4日（土）午前10時～12時、日本語教育学会会議室にて委員会を開催した。

委員の互選の結果、西郡仁朗氏を委員長として選出した。

委員長の指名により、松岡洋子氏、島田めぐみ氏が副委員長として選出された。

査読協力者の登録状況、163号以降の投稿論文査読に関する編集担当委員業務、事業再編の説明、165号特集（2016年12月号）の特集の趣旨等の検討が行われた。

次回委員会予定：2015年11月14日（土）

（西郡仁朗）

● 研 究 集 会 委 員 会

◆研究集会実施報告

1. 2015年度第1回研究集会（九州沖縄地区）

日時：2015年6月6日（土）13：00-18：00、7日（日）10：00-16：30

会場：北九州市立大学北方キャンパス本館

参加人数：163名（会員73名、一般90名）

内容：講演、ワークショップ、研究発表（口頭8件、ポスター7件）、活動報告（ポスター1件）

講演・ワークショップ講師：畑中豊氏（福島県いわき市立江名中学校）、講演「ことばの力を探求しよう—何をめざして、外国語を教える／学ぶのか—」、ワークショップ「体験してみませんか、畑中マジック！—笑いと涙と学び、そして愛のある授業—」

今年度も1日目の土曜日に講演と口頭発表を行い、2日目の日曜日にワークショップとポスター発表、「よろず相談・交流広場」を実施した。今回は会員以外にも、英語教育関係者などの一般（非会員）の参加者にも参加していただくことができた。1日目の講演では、講師の畑中先生ご自身の震災体験と福島や英語教育への思いを伺う一方で、2日目のワークショップでは実践的な内容を笑いの途切れない中でお話いただき、参加者にもたいへん好評であった。土曜日の夕方開催の懇親会のほかに、日曜日のポスター発表終了後には、初めて「よろず相談・交流広場」を実施した。約40名の参加者の相談に応じて、6つのブースを設け、各ブースにファシリテーター1名を配置し、交流を深めた。なお、ポスター発表では、今回も聴衆による投票を行い、最後の閉会式で1位1組、2位2組（同点のため）の合計3組を表彰した。

（中島祥子）

2. 2015年度第2回研究集会（中部地区）

日時：2015年6月13日（土）10：00-16：40

会場：名古屋大学IB電子情報館

参加人数：144名（会員87名、一般57名）

内容：講演、研究発表・実践報告（口頭14件、ポスター4件）

講演講師：池田玲子氏（鳥取大学）「ピア・ラーニングによる日本語授業実践—授業デザインのポイント—」

今回は午前2会場、午後3会場に分かれ計14件の口頭発表、また4件のポスター発表が行われ、それぞれ活発な質疑応答が交わされた。また、毎年恒例であった昼食交流会は「ランチタイム交流会」と名称を改め、昼食を各自持参して気軽に情報交換ができるイベントを開催した。参加者からは、研究や教育現場の問題などについて意見交換する機会となり非常によかったという意見が多数寄せられた。

午後には、講師として池田玲子氏を迎え、前半はピア・ラーニングの定義や実践例についての紹介があった。

後半のワークショップでは、四コマ漫画を利用したタスクや新聞広告の写真を使用した授業デザインを組み立てる活動がグループで行われ、参加者からはさまざまなアイデアが生み出されていた。

今年度は口頭発表、ポスター発表、ランチタイム交流会、講演のそれぞれの会場で積極的に議論・意見を交わす場面がみられた。さらに、一般参加者（非会員）の参加が多かったことから、地域の日本語教育関係者との情報交換となる場を提供でき、充実した研究集会となった。
(木下謙朗)

3. 2015年度第3回研究集会（北陸地区）

日時：2015年6月20日（土）10：00-16：25

会場：富山大学五福キャンパス

参加人数：56名（会員28名，一般28名）

内容：講演，ワークショップ，研究発表（口頭4件）

講演・ワークショップ講師：向後千春氏（早稲田大学）

「日本語教師のための教える技術—教える技術と研修への活用—」

午前は4件の口頭発表があった。発表内容はゼロ助詞、初級教科書分析、地域日本語教育に関わる人材、日本生まれ・育ちのJSLと、日本語教育の裾野の広さを感じられた。午後の向後千春氏の講演・ワークショップでは、「教える技術」について「運動技能」「認知技能」「態度技能」の三つの観点からワークを交えながら、ご講演いただいた。ワークは終始和やかな雰囲気、参加者の生き生きとした表情が印象的であった。予定より早く講演内容が終了したため、昨年11月に教師研修として実施された「反転授業入門」のワークショップのダイジェスト版をお話ししていただいた。研究集会に対するアンケートでは、特に講演・ワークショップの評価が高く、「遠くから参加してよかった」「授業のヒントになり、自分を見直せた」等の声が寄せられた。今後も、北陸地区の日本語教育の活性化に向けて、さまざまな工夫を凝らしていく必要がある。

(田中信之)

4. 2015年度第4回研究集会（北海道地区）

日時：2015年7月4日（土）10：00-17：45

会場：北海道教育大学函館校

参加人数：62名（会員33名（うち北海道教育ネットワーク会員4名），一般29名）

内容：ワークショップ，研究発表（口頭6件，ポスター9件）

ワークショップ講師：池上摩希子氏（早稲田大学）「改めて考える「地域日本語教育」の役割—私たちがしたいこと・私たちができること—」

今回の研究集会は、海外を含む各地からの応募者に恵まれた。口頭発表に12件、ポスターに5件の計17件の応募があった。時間の都合もあり、4件の口頭発表希望者

はポスター発表での採択となった。その他、不採択が1件、辞退が1件となっている。

午前・午後ともに二会場に分かれて研究発表を行った。発表内容は、文法、音声、第二言語習得、評価、地域日本語教育、大学における日本語教育と多岐に渡った。

ワークショップでは、地域日本語教育について講師と参加者、参加者同士での活発な意見交換が行われた。参加者は研究集会発表者および大学の日本語教師だけでなく、大学学部生、大学院生、地域日本語教育ボランティア、日本語学校の講師等、背景知識も経験も様々な方であった。

今回の研究集会ではワークショップの時間帯のみ、託児室を実施した。2名の利用があった。利用しなかった他の参加者から、今後は研究発表の時間帯も利用できるように託児時間を長くしてほしいという声が寄せられた。

(伊藤（横山）美紀)

◆ 今後の研究集会予定

- ・第5回研究集会（関東地区）「実践研究フォーラム」
2015年8月1日（土）・2日（日），
国際交流基金日本語国際センター
- ・第6回研究集会（関西地区）
2015年9月5日（土），園田学園女子大学
- ・第7回研究集会（四国地区）
2015年10月24日（土），香川大学
- ・第8回研究集会（東北地区）
2015年11月21日（土），秋田大学
- ・第9回研究集会（中国地区）
2015年12月27日（日），広島女学院大学
- ・第10回研究集会（関西地区）
2016年3月12日（土），桃山学院大学
発表応募締切：2015年11月13日（金）

※各地区研究集会のプログラム、発表要旨、発表募集情報等は、日本語教育学会ウェブサイトの研究集会ページに掲載しています。

<http://www.nkg.or.jp/menu-syukai.htm>

◆ 会議記録

1. 全体委員会

- (1) 2015年度第1回研究集会全体委員会（2015年5月31日，武蔵野大学有明キャンパス（春季大会会場））

<報告事項>

- ① 新委員の紹介
- ② 各地区報告と予定
- ③ 研究発表等の研究倫理に関する特別委員会の

<審議事項>

- ① 研究集会運営方法について
- ② 発表応募規定について

③ 各地区からの審議事項

④ その他

2. 関東地区委員会（実践研究フォーラム実行委員会）

(1) 2015年度第1回関東地区委員会（2015年4月18日）

(2) 2014年度第2回関東地区委員会（2015年6月20日）

(3) 2015年度第3回関東地区委員会（2015年7月25日）

◆ 次回会議日程

1. 全体委員会

2015年度第2回研究集会全体委員会（2015年10月11日、
沖縄国際大学（秋季大会会場））

2. 地区代表者会議

2015年度地区代表者会議（日時未定）

3. 関東地区委員会

2015年度第4回関東地区委員会（2015年10月予定）

● 教師研修委員会

◆2015年度研修実施報告

1. 児童生徒の学びを支えることばのカー特別の教育課程化から広げる学びの支援の可能性—

講師：石井恵理子氏（東京女子大学）

開催日：2015年6月28日（日）10：00-16：30

会場：早稲田大学早稲田キャンパス 参加者：49名

◆2015年度研修予定

1. 夏季集中研修「“話し合いの評価” “教室における談話”を捉え直す」

開催日：2015年8月8日（土）、9日（日）

会場：東京大学駒場キャンパス 定員：各ワークショップ40名、合計80名

2. 反転授業

開催日：2015年10月31日（土）

会場：未定 定員：40名

3. 教材開発

開催日：未定（2015年11月～2016年3月のいずれか予定）

会場：未定 定員：未定

4. タスク再考

開催日：2016年1月9日（土）

会場：未定 定員：40名

5. 教室活動のデザインⅧ

開催日：未定（2016年1月～3月のいずれか予定）

会場：未定 定員：未定

6. ナラティブ

開催日：未定（2016年2月または3月予定）

会場：未定 定員：未定

※上記はいずれも予定のため、研修タイトルや日時、会場等が変更する場合もございます。各研修の募集詳細は決定次第、日本語教育学会ウェブサイトの教師研修

ページに掲載します。

<http://www.nkg.or.jp/menu-kenshu.htm>

◆会議記録

1. 2015年度第1回教師研修委員会（2015年4月18日）

(1) 2014年度研修実施報告

(2) 2015年度夏季集中研修について

(3) 2015年度研修企画進捗状況

(4) 次回会議予定

2. 2015年度第2回教師研修委員会（2015年6月20日）

(1) 新旧委員自己紹介

(2) 今後の教師研修委員会について

(3) 新委員会体制について

(4) 2015年度研修企画進捗状況

(5) 次回会議予定

(6) その他

3. 今後の教師研修委員会についての学会執行部（会長・副会長）からの説明会を2015年7月17日（金）に行った。

◆次回会議日程

1. 2015年度第3回教師研修委員会（2015年9月12日）

（宇佐美洋）

◇ 事務局からのお知らせ ◇

● 2015(平成27)年度会費納入のお願い

当学会の事業活動の円滑な推進を通して、会員をはじめ関係者各位の教育・研究に資すること、並びに、海外における日本語教育活動との交流や支援に寄与することが一層求められています。学会の活動の重要性をぜひご理解賜り、会費納入にご協力くださいますようお願いいたします。

ご送金の際は、必ず会員番号を通信欄に明記してください。

<会費納入方法>

- 郵便振込 00140-5-64631
- みずほ銀行新橋支店 (普)130-880757
- 現金書留
- クレジットカード支払(海外在住者のみ受け付けます。事務局会員サービス係(kaiin@nkg.or.jp)にお問い合わせください)。

● 年度会費自動引落システムのご案内

日本国内に銀行口座等をお持ちの方々を対象に、「年度会費の自動引落システム」をご用意しております。全国の金融機関(銀行・信用金庫・信用組合・郵便局等)でご利用いただけます。詳しくは事務局会員サービス係(kaiin@nkg.or.jp)までお問合せください。

<年度会費>

- 普通会員 10,000円(年度額)
- 賛助会員 一口50,000円(年度額)

● 住所等の変更について

所定の書式にご記入の上、郵便または下記のいずれかの連絡先にお知らせください。

FAX : 03-5216-7552 / E-mail : kaiin@nkg.or.jp

なお、メールアドレスを新設された方や、メールアドレスを変更された方は、①会員番号②氏名③名簿への記載の可否を、メールでお知らせください。タイトルは「学会員メールアドレス登録」としてください。電話での連絡は、ご遠慮願います。

● 学会誌メールアドレスについて

学会誌に関連するお問合せは、学会誌専用アドレスにご連絡ください。

学会誌専用 : gakkaiishi@nkg.or.jp

● お詫びと訂正

『日本語教育』160号に以下の誤りがございました。お詫びし、訂正申し上げます。

<訂正箇所>

- (1) p.1の12行目
誤 : 1976年に社団法人「日本語教育学会」に
正 : 1977年に社団法人「日本語教育学会」に

- (2) p.2の3行目
誤 : 1990年には母校の名大に戻られ
正 : 1980年には母校の名大に戻られ

- (3) p.93の英文所属名
誤 : Osaka University
正 : Ritsumeikan University